

同窓会報

発行者
上田千曲高等学校同窓会
事務局 TEL 0268-22-7070

印刷所
(有)アオヤギ印刷



昨年秋、51年ぶり新人戦県大会出場（長野オリンピックスタジアムにて）

歴史をふりかえる

学校長 飯島 彦太郎

ご壮健のこととお慶び申し上げます。さわやかな初夏の季節、同窓会員の皆様におかれましては、ますます

日頃は、久保田同窓会長様はじめ同窓会の皆様方には、母校のために物心両面にわたり、ご協力ご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。お寄せ頂いておりますご厚情にお応えできまますよう全校一丸となって努力しております。

す。ご承知のように平成十六年より通学区制が変更となり四通学区となります。これからの少子化とも合わせ、本校の今後の在り方が問われるかと思えます。このようなことを含めまして、同窓会の皆様方には忌憚のないご意見をお寄せ頂きたいと思えます。

先日、古い書類の中に、昭和二十八年（一九五三年）十一月発行の「千曲高校新聞」がありました。本校が完全県立移管となったことを祝ったものです。一面に当時の上田市長が「格段の奮起と勤勉さを」学校長が「地域社会の熱意に感謝」と題して書いておられます。昭和二十四年の県立移管は完全なものではなく、二十八年までの間に、上田市が中心となり、十教室、体育館、理科教室等の建築がなされ、完全移管されたことが冒頭に記述されています。発足当時を含め、県立移管に至る本校の成立は、同窓生をはじめ、多くの地元の人々の協力のもとになったことが分かります。生徒会長が「愛校心の成果」二年生が「環境に甘えるな」と題して書いていますが、当時十七才位とすると現在は六十五才位の方でしょうか。

座談会の最後に学校長が「先輩、先生方が苦労してつくった創業開拓の精神を忘れるなということである。まさに質実剛健こそこういう環境にあって育まれたものである。就職先にあっても、どこにあ

つても世間へ評価されているのは、千曲の生徒は、よく働くということであるが、一木一草、先輩の血と汗がにじんでいるという自覚が今後の伝統を築くものである。そこにこそ日に日に成長してゆく千曲高校のすがたの源泉があると信ずる」とおっしゃっていただきます。現在ある千曲高校は、このような精神のもとに、多くの同窓生のお陰だと思えます。

「同窓」ということばの響きには何か心暖まるものがあります。全国各地で活躍されている同窓生が、多感な青春時代を過ごした本校、友達を思い出させるものが同窓会の活動だろうと思えます。

本校の同窓会が更なる伝統の確立のために、一層のご発展を祈念して、ご挨拶いたします。

インフィオラータ・イン・ナガノに参加
同窓会副会長 山浦 幸知子 (昭30・商卒)



会員の皆様には益々お元気で活躍のこととお察し申し上げます。

「インフィオラータ・イン・ナガノ」は、自然と歴史を育む長野の春を象徴する新しい祝祭です。インフィオラータとはイタリア語で「花を敷き詰める」という意味だそうです。

春宵一刻千金の好季節の四月二十日（土）二十一日（日）善光寺

参道入口長さ一三〇メートルと長野駅コンコース、セントスクウェアに美しい花のじゅうたんができたのです。

この花のじゅうたんを作るのに三百人からのボランティアが必要となり、私も仲間入りをし上田からは三名の参加です。ほとんど長野市とその近隣の町村の人達でした。

十八日に作品プロデューサーの今岡寛和さんの挨拶の中で、一三〇メートルからの長いインフィオラータは、全国で初めてでしょう。誇りを持って素晴らしいインフィオラータが出来よう頑張ってくださいと云われ、私にとって初めてのことでえらい所に参加したと思う反面、この素晴らしい事業に参加できることを幸せに思い悔いの残らない仕事をしようとして自分に云いきかせ臨みました。



善光寺にてインフィオラータ



すべて終えて田中知事と一緒に

ツブ)、松の葉、玉じやりを敷き詰めることを通訳を通しながらハーサルが昇警の体育館で行われ、午後は参道に出て本番です。チップ、松の葉、玉じやりを詰め、イタリアの方に見て頂きながら仕上げて行きます。今日分だけ出来上りを見て頂き、パーフェクト、グー、と云われた時はチームの十人で喜び天にも昇る気持ちでした。明日はいよいよ花びらを敷き詰める日、明日も頑張ろうと氣勢をあげて解散となりました。

十九日午前中、城山小学校の体育館で、チューリップの花びらの取り方を教えて頂く。城山小学校の五・六年生もお手伝いをしてくれる。花粉によって指先が黒くなったり、黄色っぽくなり何か違う仕事をしているようでした。

午後は花びらを敷き詰め総仕上げ。花びらの厚さは五センチ、チップ、松の葉、玉じやりは、四センチと二段階に分けてポンドスプ

レーで固める。花びら、松の葉の置き方で生きるも死ぬも決まるということを知りました。十一チームが責任を持って仕上げた一三〇メートルの花のじゅうたんは、それはそれは素晴らしい花のじゅうたんに仕上げました。

観光客の人達もきれいな素晴らしい!!初めて見ると云われうれしい気持ちと、優越感にひたりました。

日曜日の雨の中、夕方五時からファイナルが行われ、城山小学校の子供達を先頭に知事、イタリアの方々、事務局、ボランティアの人達が花のじゅうたんの上を歩くのですが複雑な気持ちでした。

イタリアのヴァレリオ・フェスティさんがナガノの皆さん、初めてのインフィオラータ素晴らしい物に仕上げられたいと云うので、全国一どころか世界一長いインフィオラータです。誇りを持って下さい。私達にとつてうれしいお言葉でした。

この事業に参加して感じたことは外国語が話せなくても誠を持って接すれば解りあえること云々と、又、目的を持った人達が集まり助け合い仕事をするということ、した事のない事も楽しみながら、できるものと教えられ充実感のあった日々でした。

来年も又、お会いできることを楽しみに元気でいきましょう、と、別れをおしみながら帰路につきました。

我が人生

(三十周年を迎えて)
清水初太郎(昭40・機卒)

私が自分から会社を起こすに至る要因は遠く中学時代に遡る。当時、手作りでできる動くおもちゃに興味を持ち、「三度の飯より機械いじりが好き」な少年でした。将来必ず機械屋を夢見て、当然機械科に進学し、就職を考えた時、何を身につけたら独立開業への道が開けるのか色々考えた結果、大手企業の歯車の一部でなく、せめてユニットの中の一の歯車ぐらいになったら十年以内に独立しようという決意のもと、時あたかもモーターゼーションブーム、自動車部品会社で技術を磨くことにしました。

サラリーマンの第一印象は「給与をいただいて仕事を覚えられろ」という正に一石二鳥である。生産技術部で図面作成他の修工期間の七年はあつたという間に過ぎた。しかし脱サラ後の起業も経営資源である「人・金・物」のアンバランスで思うように進展せず、約二年間は経営ノウハウの掌握及び将来性の高い業種選別に時間を費やした。鉄を樹脂に置き換え、板、丸棒、パイプを材料とし、機械加工する業種であった。当時は目新しい加工で、大多数の人は樹脂といったインジェクション成形だけをイメージするはずだが、

全く異なる加工方法であった。しかし何の手づるも実績もない二十代の若者が飛び込み営業しながら受注品を製造することは今振り返っても何と無謀であったことかと苦笑してしまふ。電話番役の妻と営業活動し営業技術、加工技術、資金調達方法など当時の自分には荷の重い事ばかりで自分を責める以外道は無かった。それでも地元有力企業の固い信用を少しづつ勝ち取り、機械設備も増強し安定的に受注できるようになりつつあった。その頃、起業時に志した方向性を少しづつ実行に移した。大手企業が手を出さない分野、技術の売れる価値の高い特注の仕事で試作品、小ロット部品、治具工具の三本柱の事業内容で経営を進めた。早く町工場のスタイルから脱皮して、企業と呼べる内容にする事を常に考え無我夢中で若い社員を育てた。また受注先についてはできるだけ多くの異業種でおかつ大企業または地元有力企業に的を絞る、経営安定化の柱に据えた。

創業十年位で大幅な設備投資をし、現在の場所に移動したが、十人足らずの社員で一億を超える設備には勇気が伴った。中学からの夢の一つであるハーレーダビッドソンの入手もこの頃であり、時を同じにして、かねてからの新分野ねらいのセラミックを手がけ始めた。この事業も未知の世界で困難が伴った。樹脂は軟らかく精度保持、加工方法、鉄より難しい。ま

たセラミックは硬すぎて難削材でその上非常に割れ易いなど、それぞれの特性を熟知するのに時間がかかった。幸いスタッフにも恵まれ(株)アヅマセラミックという別法人で経営に臨んだ。今考えるところの節目の十年が多方面にわたる手が打てた時期であつたと思う。しばらくしてパブルの絶頂期に異業種交流を通じての組合設立で、新商品の開発に取り組んだがパブル崩壊と共に解散に追い込まれた。ちょうど二十年の節目であつた。半導体分野の仕事も多く取り入れたのもこの頃で、スーパーエンペラの使用が多く高附加をもたらずが、高度な技術が求められた。幸い通産省指導の創造法認定を受け、補助金等有利な展開ができた。また資金調達の多様化をにらみ、私募債の発行等による施設補強と少し生気なことも勉強してみた。三十周年を前に価格破壊、海外転出、雇用不安の新3KそしてITバブル崩壊の製造業にどんな希望をみいだすか。三十年目の戦いの幕は切つて落とされた。今までで最も難関かも知れないが、広く明るい眼をもって突破しようと思う。

会社概要 (株)アヅマ
代表取締役社長 清水初太郎
資本金 三千万
年商 二十億
従業員 九十五名
関連会社 (株)アヅマセラミック

明日を見据えて

野球部監督 日置 透



日頃は、千曲高校野球部に多大な御支援、御協力をいただき誠にありがとうございます。

現在野球部は、四月に十八名の新入部員を迎え、三年生の女子マネージャー二名を含め総勢三十三名にて活動させていただいております。

活動スケジュールとしては、シーズンは平日十六時から二十時頃、土日祝日が練習試合等で一日中トレーニングをし、シーズンオフは、超筋力、パワーアップを課題に、ランニング、階段登り、エアロビクス等様々なトレーニングで子供の体から大人の体へと日々練習しております。また、栄養と休養とトレーニングという三原則を大切に考えておりまして、保護者、選手への栄養講座、食欲の落ちる夏休みの合宿、また月に三、四日の休日を設け、現代の高校生に合致したシステムを、様々な角度から考え、試行錯誤しながら、二年と数ヶ月しかない高校野球生活がより充実し、急成長できるように願ひ、取り組んでおります。

大きな社会を背負い、大きな責めと共に生きて行く事になります。様々な人々の援助があつて自らが存在できる事を認識し、感謝の気持ちを持って生きて行くその準備として礼儀が基本となつていくわけで、充分に、礼儀に對し理解し、自然に感謝の気持ちから「あいさつ」「報告」などできるように成長していくことが大切だと思ひます。野球のプレーにおいてもそれは、目標達成の軸となると考えます。プレーする事も、考えたり、困っている人に手を差し伸べるのにも、全て自分自身がしっかりといることが大前提だと考えます。二つめに、トレーニングを重視したパワー野球を掲げております。プロとアマチュアの大きな差は、まずパワー、体力の違いがあります。同様に、甲子園に近いチームと遠いチームの差は、まず体力の違いがあります。体力のない選手が、いくら技ばかり磨こうとしても、限界があります。しかし体力の有り余つている選手は、ハードな練習にもケガなく対応でき、急成長していきます。体力は車というエンジンなので、大きいエンジンを体に装備していくことで、連戦に耐え、また様々なオプションを付けても走り続け、ここ一番の爆発力もあるわけで、その点を充分に理解させ、先ほどの栄養、休養、トレーニングのサイクルを徹底しております。選手が野球に誠心誠意取り組む

ことで、本当の自分自身の内面を知ることができると思ひます。長所は、生きていく自信、エネルギーに変化し、短所も、しっかりと向き合えば、長所以上の活力が生まれると思ひます。

個々の仕事を理解し、責任を持ち、チームに何ができるかを考える続ける全員野球で、次々と現れる困難を乗り越え、その度に力強さを増し、その姿勢は我々野球部のみならず、上田千曲高校、さらには上田市、長野県全体に勇気、希望を与えていくのだと信じて止みません。二十七個アウトを取っても取られなくても立ち止まる事なく、無限大に広がる可能性に、決してあきらめない闘志で前進していきたいと思ひます。

最近、アルプススタンドで同窓会が盛大なる応援とともに行われている夢を見ました。険しい道が続きますが、立ち向かつて前進して行きますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

翔け千曲球児

野球部長 林 明男 (昭33・建卒)

青葉に射る陽光が日増しに強く感じられる今日この頃となりました。日頃は、野球部の活動に深い関心と御支援を賜りまして誠にありがとうございます。ここに厚く御

礼申し上げます。

さて、今年も夏の甲子園大会が近づいて参りました。長野大会に向け選手達には、今が一番大切な時期であるので目標を持って頑張るよう指導しております。

振り返りますと、昨年四月より日置透監督を迎え、新態勢で野球班復活に取り組んで参りました。春の大会は野沢北高校に四対〇と敗れ、夏の大会では二回戦で飯田高校に六対三で敗れてしまいました。春・夏ともに二・三年生の選手が少なく、一年生が重要なポジションを守り、チャンスには一年生に打順が回ってしまうといった状態のゲーム展開となり苦しい試合でありました。

夏の大会終了後は二年生四名・一年生九名で秋季北信越高校野球大会で勝ち上がり、県大会出場を合ひ言葉に練習に励みました。早朝より練習を開始し、昼食後昼寝をしてから、涼しくなる時間帯より日没までというハードな一週間の練習を行いました。これは練習の一端ですが、選手は良く頑張つて就いてきました。

秋季東信予選一回戦白田高校十対三、二回戦望月高校十八対三のスコールド勝ちをし、代表決定戦の野沢南高校には十三対一の大差で勝つことができました。上田西・丸子実の両校には敗れ残念ながら東信地区四位で県大会に出場しました。県大会では南信地区優勝校諏訪清陵高校に延長十一回九

対八で惜敗でした。

十一月には、同窓会より照明灯を六基設置してもらい、野球OB会より寄贈された照明灯と合わせ十基となり、内野ノックは充分できる明るさとなりました。選手達には周囲の人々の支援によって、練習環境が整備されることに感謝の気持ちを失うことなく練習に専念しなければいけないと常に話しております。

今年の春季東信大会二回戦は岩村田高校に十一対九と勝ち、代表決定戦上田高校に八対七と惜敗し、県大会出場はできませんでした。

春季大会終了後は、夏の大会に向けて県外の甲子園出場経験のある強豪チームと数多くの練習試合を予定しております。例えば、日本文理、高崎商業、高崎工業等の高校チームです。

秋季大会での活躍や、千曲高校野球部の状況を知る新入生が十八名入班しました。昨年は走者がいる場合の練習が数少なく、試合中にミスが多かったのですが、今年には様々なケースの練習が可能となり、反復練習によってプレーに自信が持てることになると思ひます。最近の練習には活気があり、ムードも高まりつつあります。

夏、長野大会メイン県営上田野球場に於いて大きく翔くことを期待しております。

今後とも、同窓生の皆様方の御支援よろしくお願ひいたします。

同窓会ホームページ開設

顧問 細田 英俊

同窓会の皆様には、野球班の活動のために多大なご支援ご高配を賜りまして、誠に厚く、お礼申し上げます。

お陰様で桐葉館にパソコンを設置しインターネットの接続契約を致しました。さつそくホームページを開設させていただきました。有効に活用してゆきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

なお、ホームページならびに電子メールのアドレスは次の通りですので、ご利用下さい。

ホームページアドレスは、
<http://www7.ueda.ne.jp/~doso-chikuma/>

電子メールアドレスは、

doso-chikuma@po7.ueda.ne.jp



甲子園目指す野球部員

野球部を育てる会よりお願い

会長 丸山 正明

日頃は「育てる会」にご協力を賜りありがとうございます。

さて、本年も野球部員の活動の応援の為に寄付をお願い申し上げます。一口二万円程度でも結構です。尚、振込用紙を同封しましたのでご利用下さい。

人生は一本道ではない

同窓会理事 窪田 栄 (昭31・家卒)

誰にも「学生時代」という人生の中のひとコマがある。私の人生ドラマの中でも大切な意味深いものを諦めて無から有へと運びこんでくれた自分形成の基本であったように思う。さて私は今六十五才、遺伝子のプログラムであるならば役割は済み大切なのは五十才くらいからだと思う。

ふと思えば小・中・高の学生頃は何か目まぐるしく過ぎて行ったように感じる。それはその時代の中で第一に家の勤労の助手で数に加えられていて「学」は第二で働くことと学ぶを両立させるべき努力が必要であった。しかしそれが特別不平にもならず、私にとつて頑張ることがあたりまえにさえ思っ

て過ごしたように思う。
大人になり時が来て家庭を持ち主人の得意とする建設業をゼロから出発させ、バカみたいな無限の夢を描きながら目標に向かって、

き進んだ「若さ！」とは恐ろしいほど強気にさせたものでした。いろいろと遠慮なく襲い来る出来ごと、社会との接点の中での戸惑い、次から次へとこれまでかと思ふかる出来ごと、一つ一つ越えるたび自分が大きくなれたように思う。ある時から子供たちが成長して会社に入ってくれた。生き生きと目を輝かせている姿をみてホッと気分が良かったが私は思った。母親の私が目を光らせて頑張つてこの会社には子供たちにとつて果たしてよいのだろうか？と。我が身を問う日が続いた私は結論を出した。「引くべきだ」と。がむしゃらに生き続けた事業の世界を迷うことなく去った。そして心の中で子供たちにエールを送る一人に変身した。しばらくして考えた。「人間は二度人生を生きてみよう」と。但し勝手気ままでなく少し世のためになることもしたいと漠然としたことを思いながら意欲を作り出した。そして「押花」という世界に引き込まれていった。新幹線が出来た年に東京の押花専門家を訪ねた。「あなたの意欲を認めましょう。年令は問いません」と受け入れてくださり特訓を受け続けた。覚悟はしていたが胸つまる思いはいくたびかあり、その時々心が迷い決意がくずれかけ、負けくせが誘惑をか



寄贈された押し花の作品

けてきたこともあった。心を静める努力をして「素直」な気持ちで自分に呼び起し、指導者に対してすぐれた技術の伝授に感謝の心を抱くことだと自分にカッを入れたこともあった。平成九年に夢にみた独立「愛花押花工房信州栄教室」と名杯を掲げ教室開設をした。同級生にこのことを知らせ聞いてもらった。「あなたがこんなに頑張るならわたしたち呼びかけて生徒になるよ！」と協力態勢にまわってくれた。涙がポロポロと頬に流れて感謝の言葉さえ声にならずた頭を下げた。このご恩に報いるためにも私は益々押花技術を向上させるべく東京へ講師レッスンに出席している。

十三年、念願の押花写真額（実用新案登録第3070714号）技能士を取得、長野県で私一名のみ合格し共同使用許可の認可を得ることも出来た。こうして積み重ねのうちにようやく私の教室の生徒の中から十一名の「師を育てプロとし

て今や広く押花ビジネスを展開している。授業の内容はコースがあり自分の目標を定めて選択する方式を採っている。「一年後の成長したあなたに乾杯！」と題して毎年秋、感謝祭を催し独特な押花世界を奏でている。
押花は文化の一つです。だから技術は誰にでも知らせてあげたい！と思っている。私は果たしたいもう一つのことを心に秘めている。それは「押花詩集」を自費出版したいこと。老いてこそもつともつと輝いていこうと心を引き締め時間を大切にしている。ワクワクしながら自分の一度しかない人生ドラマの主人公役を演じている今日このごろです。

押し花の額四枚を寄贈いただきました。



寄贈された押し花の作品

進路室から

進路指導主事 伊藤 雅章

(1) 進路概況

専門高校として、地元企業からの期待は相変らず多いが、昨年の就職者は、世の中の不況を反映し、卒業生の二十五%と一昨年より更に減少し、逆に進学者は、おおむね専門性を生かし、更に知識・技術を磨く学校選択をしている。

(2) 就職状況

相変らず深刻な就職状況であるが、地域の専門高校として築きあげてきた伝統・実績、諸先輩の活躍に支えられており、他校より恵まれている。昨年は例年採用して頂いている企業からの不採用が数社ありましたが、職種の枠や会社の規模等柔軟に考え、就職希望者が全員職に就くことができた状況である。専門高校での強みが地域でも高く評価されていると考えられる。今後共諸先輩方の御支援を御願ひする次第です。

(3) 進学状況

入試方法の多様化で、様々なチャレンジ方法(AO、資格、自己推薦)ができる様になったり、本校の進学者は、殆ど推薦入学である。各料ともいくつか

の大学からの指定校枠を得ており、年々大学数も増えている。専門学校の特別推薦、による合格率も高くなっている。四年制大学進学者は、前年より九人増。短大進学者は前年より八人減。商業・食物栄養・生活福祉の各料が多く推薦や受験で合格した。専門学校進学者は、九十六人と昨年より減ったが、多様な分野で学べることから人気がある。

(4) 昨年度実績 (一部を紹介)

◎就職71名(企業敬称略)

アート金属工業、石原産業、伊藤商会、上田交通、ケアホーム上田、敬老園、コトヒラ工業、塩田病院、信越精密、信州富士電機、千曲荘病院、中村工業、日信工業、ハイテックウエダ、ハリコム、日高精機、堀内電機製作所、松田産業、丸子有線、ミクニ、ミヤザワなど。

◎進学185名(順不同)

・四年制大学(42名)

信州大、長岡技科大、和歌山大、下関市大(以上国公立大)、長野大、高千穂大、東洋大、日本工大、金沢工大、湘南工大、足利工大、拓殖大、山梨学院大、国士館大、創価大、立正大、宝塚芸大、聖徳大、松本大、中京学院大など。

・短期大学

長野県短大、大月市立短大

共栄学園短大、新潟工短大、埼玉短大、浦和短大、上田女短大、湘北短大、信州短大、清泉女学院短大、富士短大、松商短大、長野経済短大、長野女子短大、飯田女子短大、群馬社会福祉短大、文化女子短大など。

・各種学校(96名)

職能大学校、長野県工短大、国立長野看護、佐久看護、長野医技、日本工学院、群馬自動車整備など。更に、理美容、製菓、栄養、保育、ファッション、デザイン等各方面の学校

■信州大学工学部合格



電子機械科 大輔
平成14年卒
平東部中出身

自分は進学と決めていました。経済的な面から私立大学は無理だから信大の工学部か繊維学部かに進学したいと考えていました。三年生になり機械系にするか、電気電子系にするか迷い、担任の先生と相談して機械システム工学科に決めました。入試は一般推薦入試(工業科枠)です。面接と口頭試問がありました。願書と同時に「自己申告書」を提出します。この申告書は担任の先生に何度か添削して戴きました。面接も、何回か練習しました。元気良くはきはきと答えるように心掛けました。

■信州大学工学部合格



電気科 英二
平成14年卒
上田三中出身

本番では緊張してしまいました。一つの対策としては、ふだんから面接のつもりで生活をすることが大切だと思いました。口頭試問は、毎日勉強をし、基礎基本が理解できていて、同じ問題でも、正確に・素早く・何回も解く・訓練がしてあれば乗り越えられるのではないかと思えました。この入試で募集定員二名の所に合格できたのは、今までに多くの資格検定に挑戦して取得していたことや運も良かったと思っています。入学の機会が与えられたので、「これからの勉強や努力が並大抵のものではないぞ!」と自分に言い聞かせています。これから受験する皆さんにアドバイスしたいことは、欠席数を少なくする(基礎基本の学習の取り入れになる)、評定を良くする事です。しかし過ぎてしまった人は、その事を考えるより、これから何をすべきか考える、そしてそれを直ちに実行することだと思います。何事でも目標を決めたら、途中で諦めず最後まで頑張ってください。

僕は面接の3日前に、以前の

口頭試問に「オシロスコープの使い方」が出されたとのことで、その使用方法を教わりました。もちろん出題はされませんが、た。しかし、教わっている時に不意に「どうしてこうなると思うのか?」「この場合はどの位の値になるのか?」などの質問がされました。これが面接の時の答える練習になったと思えました。そこで先生方をお願いして、オシロスコープやコンデンサの仕組み・働き等各専門科にあった内容の口頭試問を対話形式で練習しておく効果的だと思いました。その他に三教科の問題があり、僕は時間配分をミスしたこと、解答の方法をミスしたことを面接が終了した時に思いました。これらを無くすためにも、事前に過去問題に接しておいて、傾向と対策をしておくとういと思えました。

進路決定については、最後の最後まで希望学科について迷いました。まだ「どの学校のどの科にするか」決まっていな人も、進路室の資料や先生方の話を参考にし、じっくりと悩み、考えて自分の道を切り開いて下さい。最後に、これから面接や試験を迎える人に「今自分ができること」を考えて、一歩一歩少しずつでも確実に前に進めるよう頑張ってください。

長岡技術科学大工学部合格



電子機械科 山本 健介
平成14年卒業
上田一中出身

「将来、何になりたいのか」

これを考え、見つけだすことができたからこそ、合格できたと思っ
ている。私は高校入学前から、大
学進学を考えていたが、ただ夢は
持つていなかったと思う。大学で何
を学びたいか、将来何をしたいの
か、わからなかったが、高校で機
械のことを学んでから変わった。も
ともと物を作るのが好きだったので、
機械のことに興味を持った。そし
て将来は自分で自動車の設計・製
作をしてみたいという夢を見つけて
から、大学選びを始めた。いろいろな
大学の見学会などに行き、長岡技
術大学の個性的なカリキュラムが
気に入って、この大学を受験するこ
とに決めた。

受験に必要な数学、英語、小論文は
二年生から塾・学校の先生に教え
ていただいた。一番の試験は思った
より基本的な問題だったが、すぐく
緊張してしまった。あきらめていた
が、合格することができた。仮に千
曲高校でなく、普通高校であつた
としたら、偏差値の高い大学に合
格していたかもしれないが、「自分
の夢」というもの

を持ってなかったに違いない。曲
高校に入学し、進路について指導
いただいたき、よかったと思っ
ている。これから進路を考える
後輩達には、「夢を持って」いろ
いろなことにチャレンジして
もらいたい。

全日制近況

全日制教頭 中村 喜三

同窓生の皆さんこんにちは。日頃
から母校の教育環境整備にご
尽力を賜り厚く御礼申し上げます。
お陰様で今年も標記のように全
国大会への出場切符を手にする
ことができ、垂れ幕ラッシュの
季節となっております。

硬式野球部・ソフトテニス部
をはじめとする全てのクラブで
毎日熱心な指導の下で若いエネ
ルギーを燃やしております。夏
から秋にかけての各種大会に
期待していただくと共に、千
曲祭(九月一日)には是非足
をお運び下さいますようご案内
申し上げます。

ソフトテニス班男子

北信越・全国大会出場

(団体・個人三ペア)

商業班

全国高校プログラム

競技大会出場(個人一名)

簿記班

全国高校簿記競技大会出場

(団体) 県大会準優勝

(個人) 三位、四位入賞

母校へ書額の寄贈

去る六月十二日に女流書家の
田中素影(京子)氏から書額の
寄贈がありました。額は正面玄
関入口左に展示されることにな
っています。

経歴

- ・本校昭和二十一年三月卒業
(上田市立高等学校)
- ・読売書法会評議員 水穂会常
任理事 大和会総務審査員
- ・常葉学園 関西学院大学講師
- ・上田女子短大講師
- ・ワシントン大学 オックスフ
ールド大学 シンガポール大学
他五所大学での指導

書歴

- ・日展入選(二回) 読売書法展
特選 毎日展秀逸 全国かな書
道展秀作 日本書法展選抜 書
芸院特選 京展入選他
- ・昭和六十二年日本代表として
パリ美術館に展示
- ・平成八年現代文化賞受賞

吹く風にあ
つらへつくる
ものならばこの
一本はよ

きよといはまし

「六帖六・素性(群・西・歌)」

待つ人も来ぬ

ものゆゑに鶯の

鳴きつる花を

折りてけるかな

「六帖一・六帖上」

ひとはいさ心も

しらずふるさとは

花ぞ昔の
香にほひける
「貫之(群・西・歌)」



中央、田中氏 右、校長先生 左、教頭先生 (株) 東信ジャーナル社提供

定時制の近況

定時制教頭 宮下 武美

会員の皆様には、平素より本
校定時制の教育活動と定時制教
育振興のためにご理解と暖かい
ご支援を賜り深く感謝申し上げ
ます。

三月に六名が卒業し、四月に
は十名の一年生を迎えて、本年
度は生徒総数三十八名でスタ
トしました。

本校定時制は地元の強い要望
で昭和三十六年度より機械科一
学級で出発し、今日に至って

ります。設立当時は志願者も多
く、入学者の半数は社会人で勤
労学生の受け入れ機関として本
来の定時制の目的が達せられて
おりました。近年は入学者が十
名前後となり、生徒も中学時代
の不登校、全日制の不合格者、
他校中退者などからなっており
ます。入学者は変わっても本校
定時制の教育目標である勤労青
年に教育の機会を与え、「働き
ながら学ぶ」ことの両立に対す
る意志と堅い信念を培うことは
変わらず指導しております。

クラブ活動では、昨年、三年
生の堀内竜君が、卓球で全国高
校定通大会で第三位となりました。
又北信越定通大会では、優
勝しました。それにより全国規
模の大会で優秀な成績をおさめ
た生徒を表彰する長野県教育委
員会より賞状を受けました。本
年は最後ですが、すでに全国大
会のシード権を得ており、昨年
同様に期待が持てます。過日開
催されました東信定通大会では
卓球とバドミントンが勝ち県大
会に出場します。

最後になりましたが、会員の
皆様方の益々のご活躍とご健勝
を祈念申し上げます。





県大会優勝バンザイ

●男子ソフトテニス班
 団体・個人ともに県制覇
 ・団体戦決勝
 千曲 2-1 飯田風越
 全国大会（8月、水戸市）へ
 ・個人戦決勝
 山崎・柄澤（千曲） 4-2
 中島・木下（阿南）
 優勝ペアの他、西沢・竹内組、
 倉島・小林組も全国大会へ。

【運動部】
クラブ活動成績

第43回 千曲祭テーマ
テーマ「CHIKUMAX！」
開催日：8月31日(土) 9月1日(日)

～**ち**からを合わせて
くりあげよう
まじやる気！
さいだいの祭を
いつちよやりますか～

●意味
 千曲の無限大のちからを！千曲高校の一人一人の
 個性的な力を最大限に発揮する

●意義
 ・職業高校ならではの日頃の学習やクラブ活動の成
 果を発表し、校内・地域の人々との交流を深め
 ると共に、好感・支持を得られるようにする。
 ・2002年度の千曲高校生だけが作り上げる千曲祭と
 して印象に残るような文化祭にする。

●基本方針
 1. 生徒一人一人が役割を分担し、全校生徒が主体
 的に千曲祭に関わる。
 2. 文化班や同好会の活動の発表及びクラス単位の
 発表や全校企画を通して、クラス・校内の連帯を
 深める。
 3. 専門科を持つ本校の特色を生かした研究発表を
 おこない、広く地域の人々に本校のすばらしさを
 より一層理解してもらい、好感と支持を得る。

【文化部】

・全国高頭学校プログラム協議
 大会県大会
 3位 山崎正人(商業科3年)
 全国大会出場

特殊寄付御礼

●日置電気株式会社様より

昨年十月に、「同窓会及び生
 徒の部活動等に役立てて下さ
 い」と高額御寄付を頂きました。
 早速協議の結果、桐葉館
 (同窓会館)に電話の設置及び
 インターネット用にパソコン
 の購入、又、茶道班に茶道新
 立礼棚、同窓会ホームページ
 開設加入費その他部活動の器
 具購入に役立たせて頂きまし
 た。残額については、インタ
 ーネット使用料及び維持管理
 費として管理する事にしてい
 ます。お蔭様で学校でも大変
 喜んでいきます。本当に有難

ございました。

●上田日本無線株式会社

同窓会「さざなみ会」様より
 本年六月に同窓会を通じて
 「野球部を育てる会」に「ピッ
 チングマシン」一台、「防球
 ネット」二枚の御寄付を頂き
 ました。お蔭様で本年は新部
 員が十八名入り、総勢三十一
 名となりました。そこで「マ
 シン」の不足が課題となり、
 会に購入要望が上がっていま
 したが、予算的に大変苦慮し
 ていました。その矢先のこと
 で大変喜んでいきます。有難う
 ございました。

両方とも今後の活動に大い
 に役立てて結果を出していき
 ますので、宜しくお願い致し
 ます。

**同窓生名簿等について
 ご注意**

最近本校の同窓生名簿等の
 調査や、販売・広告について
 の電話又は、ダイレクトメー
 ルが送られてきますが、**本校
 及び同窓会には全く関係あ
 りませんので、ご注意ください。**
 尚、本校の同窓生名簿は大阪
 市の(株)サラト(SALAT)
 と提携しており現在名簿の
 作成は行っていませんのでご
 承知下さい。

平成14年度 上田千曲高校 同窓会総会のご案内

日時 平成十四年七月十三日(土)
 受付 午後一時半より
 総会 二時より
 講師 小林 侑氏(昭27・機卒)
 演題 「ニセモノ大國日本と科学が明かすニセモノの正体」
 懇親会 四時頃の予定
 場所 上田東急イン(電、二四一〇一〇九)
 会場 三千元(受付にて)
 会費 七月五日(金)
 申込締切 千曲高校同窓会へ葉書又はFAXでお申込み
 申込先 下さい。(FAX二二二一五三七〇)

**講師 小林侑さんの
 プロフィール**

昭和27年 本校機械科卒業
 昭和33年 日大工学部卒業
 昭和33年 警視庁に入庁
 警視庁では科学捜査研究所
 の文書鑑定科で二十余年従事
 した後、多摩センター管理官
 (分室長)、文書鑑定科長、第
 一化学部長、法医科長等を歴
 任し、平成四年警視庁参事
 (刑事部理事官)で勇退。

多数、その他コラム「ニセモ
 ノ大事典」に平成九年より連
 載中。
 活躍される同窓生の講演を
 聴ける絶好の機会です。多く
 の会員の皆様のご出席をお願
 いたします。

***** 編集後記 *****

前年に続いて皆様に同窓会報
 をお届け出来る事を嬉しく存じ
 ます。
 各界、地域でご活躍の会員の
 寄稿を戴き、紙面を飾ることが
 出来ました。今後も様々な声を
 お聞きし、愛される会報となり
 ます様に願っております。
 なおご意見ご要望または投稿
 希望の方は事務局まで御一報下
 さい。



こ・判子」社刊(1995)他